



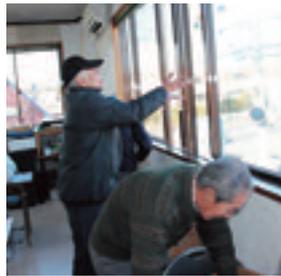
さげど 守谷市下ヶ戸「下ヶ戸コミュニティサロンふれあい館」



準備に奔走してくれた役員のみなさん

2005年のつくばエクスプレス開業の前後から、急激な人口増加の一途を辿るなど開発が著しい守谷市。その中心部守谷駅にほど近い大柏下ヶ戸地区でユニークな活動を続けているのが今回ご紹介する下ヶ戸コミュニティサロンふれあい館のみなさんです。首都圏のベッドタウンという場所柄、防災・防犯などの啓蒙活動のほか、人と人との結びつきや絆が希薄となる都市部ならではの課題にも積極的に取り組み、節分、ひな祭りや夏祭りなど季節を身近に感じられる行事など精力的に活動されている都市型コミュニティがこちらの活動の特徴です。

取材に訪れたこの日に行われたのは、節分の豆まきと恵方巻教室の2本立て。まずはふれあい館の2階から御年72歳となる年男の旦那衆が「鬼は外、福は内」という声も高らかに威勢よくお菓子やおもちなどを撒くと、下で待ち



豆を撒くのは年男の旦那衆

受ける40人あまりの地域の子供たちの大歓声を挙げながら拾い集める元気な姿がこちらで見受けられました。続いて場所をふれあい館の中に移して行われたのは恵方巻教室です。あらかじめ役員の方々が準備された新鮮な食材を前に、初めて作る恵方巻に子供たちは悪



大歓声をあげて豆まきを拾う

戦苦闘。慣れない手つきでぎこちなかった恵方巻でしたが、次第に上達を見せ遂には上手な恵方巻が完成。老いも若きも和気あいあいの雰囲気の中、今年の恵方である北北西を向

いて頬張り舌鼓みを打ちました。

そんな活動も、今でこそようやく軌道に乗るまでになりましたが、立ち上げ当初は試行錯誤の日々だったそうです。かつてより組織されていた町内会や子供会、老人会などを横断的に結びつける機能を作ろうと、この活動を思



上手に恵方巻が出来ました



楽しい恵方巻教室

い立ったのが2年前の夏。以来、代表の高木保さん(64)、顧問の安藤聖志さん(52)を中心に動き出し、今では地域のみなが協力し合い工夫しながら様々な活動に取り組んでいます。「やってみると町内には色々な人材が埋もれていることにも気付かされました。そんな方々のご活躍もあって、震災の際は他

の地区のみなさんからお褒め頂くような迅速かつ適切な活動も出来ました。でも課題も山積です。ひとつひとつ無理なく質を高めていきたいですね」と語るのは代表の高木さん。



代表の高木さん

今後の抱負をお聞きしたところ

「町内みな一家。そんな明るい雰囲気づくりを自分たちも楽しみながら作っていきたいですね」と話す高



みんな楽しくお食事タイム

木さん安藤さんのお二人。そんなお二方の笑顔に下ヶ戸地区の明るい未来が見える、そんな爽やかな気持ちにさせられました。

